



平成29年度

教育研究所だより

No.19

平成29年12月5日発行
〒987-0511 登米市迫町佐沼字袋向150-1



「人おこし」

Tel 0220-22-8029(相談専用22-8125) FAX 22-9114
HPアドレス <http://www.tome-avc.jp/rese/>

迫川にも白鳥がやってきました。白鳥の間には「コハクチョウ」「オオハクチョウ」「カモハクチョウ」「ナキハクチョウ」「クロエリハクチョウ」「コクチョウ」「コブハクチョウ」がいるそうで、日本にやってくる白鳥の多くは「コハクチョウ」と「オオハクチョウ」のようです。このコハクチョウとオオハクチョウの簡単な見分け方は、くちばしの黄色の部分が少ない(鼻孔の手前まで)のがコハクチョウで、多い(鼻孔の先まで)のがオオハクチョウということです。

第2回 国語科研修会



<高橋朋美先生>

11月22日(水)
第2回国語科研修会が開催されました。

錦織小学校の高橋朋美先生と伊藤悦子先生に実践発表をしていただきました。

錦織小学校では「国語科における言語活動」について校内研究で取り組んでいます。発表内容の概要は次の通りです。

◆国語科の授業を変える3つの視点

- 1, 国語科を核とした組織的に取り組む学力向上
- 2, 単元を貫く言語活動
- 3, 次の学びに生きる評価

◆実践例の紹介～錦織小の校内研究から～

○研究主題「確かな読みに基づいた表現ができる児童の育成～国語科における言語活動の充実を図る学習指導を通して～」

○研究の視点

- ・一次、二次、三次と系統性を生かした授業づくりの工夫
- ・言語活動を活かした授業づくりの工夫

○単元構想の具体化

- ・単元を貫く言語活動

<一次の活動(成果物の見本), 二次の活動(ノート, ワークシート), 三次の活動(取得した力の活用)>

○読書環境の整備

○学年の系統性を生かした言語活動の工夫

○全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例

<例>手紙を書く 2年「ありがとうをつたえよう」
→3年「案内の手紙を書こう」→4年「お願いやお礼の手紙を書こう」

◆国語科の授業づくり

- チェックシートで自分の授業を振り返る。
- グループごとに国語科の授業で工夫しているところや悩んでいることについての情報交換

◆系統性と繰り返しの指導

- 国語科の時間の積み重ね(小1から)
- 各教科・領域との関連や日常生活を通して
- 共通理解・共通行動

<参加者の感想>(抜粋)

◎系統性というのを強く意識させられた。小学校低から高へ、小から中へ、幼から小へということ意識して授業づくりをしたい。
◎言語活動の重要性を改めて気づかされた。
◎校種は違うが、ノートの取り方、系統立てた指導など、参考になる話を聞かせていただいた。中学校でも1年から3年にあがるまでを見据えて言葉の指導をする必要があると感じた。



<伊藤悦子先生>

第3回保育担当者及び児童館指導員等研修会

11月28日(火)第3回保育担当者及び児童館指導員等研修会が福祉事務所との共催で開催されました。会場は南方庁舎でした。



<研修会の様子>

講師は宮城わらべうたの会の小原紀子先生です。わらべうたについての実技が中心の研修でした。

実際にわらべうたを歌い、参加者全員でその動作をしながらの研修は、楽しく、時間がたつのを忘れてしまうほどでした。何百年と受け継がれてきたわらべうたには、子どもを育てる過程で大切なことがしっかり含まれている、意味のあるものであるということと話されていました。

心と体を育てる「わらべうた」をたくさん紹介していただきました。